

眼で見る世界の森林 (9)



天山のトウヒ林 (*Picea* forest)

タリム盆地の北部を東西に横走する天山山脈は5000~7000mの峰が連なり、標高1650~2700mの範囲にはトウヒ属を主要構成種とする針葉樹林帯が広がる。「新疆森林」(1989)によれば天山山脈の針葉樹林帯は年平均気温2℃前後、年降水量は300~800mmという。天山山脈東部では「天山云杉」と呼ばれる *Picea*



schrenkiana var. *tianschanica* が主な樹種であるが、基本種である「雪嶺云杉」(*P. schrenkiana*) およびシベリアカラマツ (*Larix sibirica*) が混生する。

天山山脈の森林を含む天山水源林区は中国北西部では最大の林区で、森林地が54.6万ha、灌木林地が1.8万ha、疎林地が14.3万haとなっている(中国林業区劃, 1987)。森林地の面積割合は当該林区の1.36%に過ぎないが、総蓄積量は12,145万m³と推定されている。森林地の平均蓄積量を計算すると222m³/haとなり、かなり良好な森林と考えて良いだろう。ただし、地域によって差は大きく、特に北斜面と南斜面では蓄積量は大きく異なる。南斜面は乾燥した気候とせき悪な土壌のため林木の生長が悪

く、林分平均蓄積量は81.4m³/haに過ぎない。一方、北斜面では森林が比較的濃密で生長も良いため平均蓄積量は262.6m³/haに達するという。中国の植生や森林分布の本を読むと北斜面と南斜面の違いが頻繁に記述されているが、特に降雨が少ない乾燥地では、両者の違いが明瞭に現れるのであろう。

標高3500~4500m以上には氷河が発達しており、その総貯水量は2433億m³になるという。いわば天上のダムとして、融水水が山麓の沙漠を潤している。もちろん年間300~800mmの降雨もまた、河川および地下水の重要な源となり、沙漠に暮らす人々の飲料水、農業用水をまかなうのみでなく放牧を行う自然植生を構成する植物の生活をも支えている。

写真は天山山中の天池(海拔高1888m)周辺の北向き斜面に広がるトウヒ林。シベリアのタイガを構成する針葉樹と同様に樹冠が細く長い特徴が見取れる(詳細は「北方林業」誌 Vol. 50 (齊藤1998)に)。

齊藤昌宏 (森林総合研究所)

本欄に読者の皆様の投稿を歓迎します。詳細は前号30頁を参照ください。